世界あっと言わせる、経済回す 首都圏の知事ら年頭所感

#物価高・値上げ #地域金融 #SDGs

2023/1/4 18:36 [有料会員限定]

職員を前に新年のあいさつをする東京都の小池知事（4日、都庁）

首都圏では4日、多くの自治体や企業で2023年の仕事始めとなった。1都3県の首長や地銀のトップらは年頭あいさつで、新型コロナウイルス対策と経済活動の両立や少子化対策、デジタルトランスフォーメーション（DX）対応、人材育成などに取り組んでいくよう職員や社員に呼びかけた。

東京都の小池百合子知事はグリーントランスフォーメーション（GX）や人口減少を念頭に「私たちを襲う二重三重の困難は、かつての活力を失った日本に『目を覚ませ』と言っている」とし、「東京が変われば日本も変わる。2023年は反転攻勢ののろしを上げる重要な1年だ。挑戦し続ける東京の姿を披露し、世界をあっと言わせる」と決意を述べた。

神奈川県の黒岩祐治知事は「コロナの感染者数はまだ多いが、対応にも慣れ、経済のエンジンを回しながらの対策ができている」と強調。今後の地域振興について「どうしたら県外の人が『行きたい』『住みたい』と思えるか、県外の人の目線に立って考えることが重要だ」と職員に訴えた。

新年のあいさつをする神奈川県の黒岩知事㊨（4日、神奈川県庁）

千葉県の熊谷俊人知事は「『3年ぶり』という言葉を数多く聞くようになった。23年は正常化に向け、一歩ずつ近づいていく年になる」とした。その上で「これから深刻化するのは人手不足だ。様々な形で社会に必要な分野に必要な人が行けるよう、各部署で取り組んでいきたい」と意気込みを語った。

新年のあいさつをする千葉県の熊谷知事㊨（4日、千葉県庁）

埼玉県の大野元裕知事は「超少子高齢化時代に入り、人口減少をカバーする生産性の向上が求められる。今こそ変化の時だ」とし、DXをはじめとする新たな政策手法を深く探究することを強く求めた。

年頭のあいさつをする埼玉県の大野知事㊨（4日、埼玉県庁）

経済界では、横浜銀行の片岡達也頭取が「数ある金融機関の中で選ばれるためには、人材の差別化が最も重要だ」と指摘。「顧客の課題を解決できる知識・スキルを身につけ、変化や失敗を恐れず行内外でチャレンジしてほしい」と、行員に奮起を促した。

東京きらぼしフィナンシャルグループ（東京・港）の渡辺寿信社長は「今年は法人営業だけでなく、リテール営業にも注力する。東京マーケットで存在感を示す1年にしたい」とのメッセージ動画を職員に配信。「デジタルシフトも活用した店舗戦略を進め、生産性向上とコスト削減につなげたい」と、さらなるDX推進を目標に掲げた。

武蔵野銀行の長堀和正頭取はさいたま市の本店で「（分散型ウェブサービス）web3.0や仮想空間『メタバース』などを用いたビジネスなど、様々な変化が見込まれる。従来の仕組みに疑問を持ち、既定の枠組みにとらわれない考え方を持ってほしい」と行員に求めた。

観光・旅行業の復活を期す声も目立った。成田国際空港会社の田村明比古社長は「コロナ禍からの需要回復への即応が重要だ」と強調。西武ホールディングスの後藤高志社長は「観光立国、さらには観光大国の道をもう一度力強く、スピード感を持って歩む必要がある。日本の観光大国をリードしたい」と述べた。